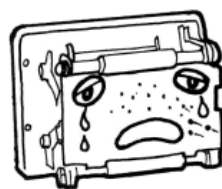
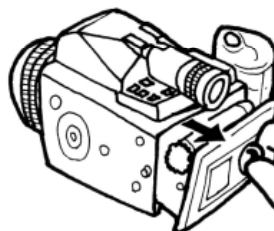


- 撮影途中でのフィルムバック交換はできません。フィルムバックをはずすと、フィルムは光線モレで駄目になり、フィルム枚数LCD表示はスタート位置[無表示]に戻ります。
- フィルムバックやボディのフィルムバック室に、ゴミ・ホコリ・フィルムのカスなどがたまると、画面にゴミが写り込むこともありますのでいつも清潔にしてください。また、フィルムバックの圧板側の接点〔フィルム検出用〕にゴミが付くと、フィルムの規定枚数完了後モーターは約30秒間空回りを続けます。このとき、メインスイッチのON⇄OFFを繰り返すと再度空回りしますが、故障の原因になりますのでしないでください。OFFにしてフィルムを取出し、圧板の接点を良く清掃してください。
- フィルム規定枚数が終る前に、巻上げ作動が停止したときは、電池を確認してください。
- オート接写リングA645やリアコンバーターA645 1.4×以外の、レンズ情報接点のないアクセサリーを使用するときは、Aレンズの絞りA〔オート〕では使えません。絞りは各F値でご使用ください。



汚さないで
ください

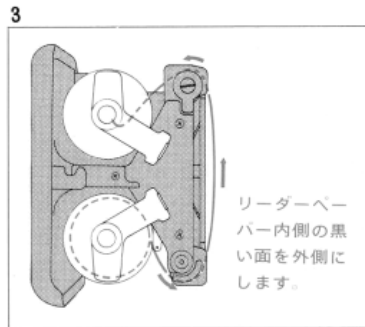
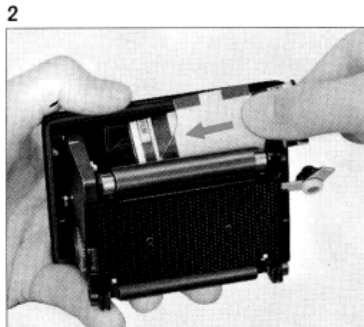
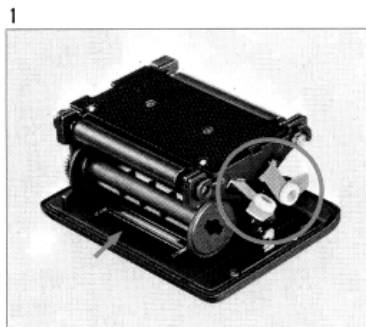


フィルムが
途中では

基本操作



フィルムの入れ方・出し方



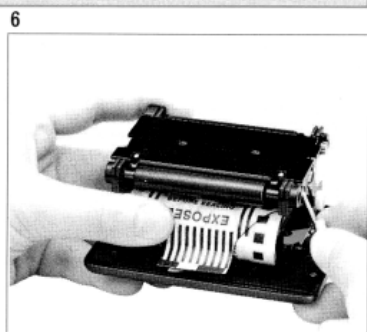
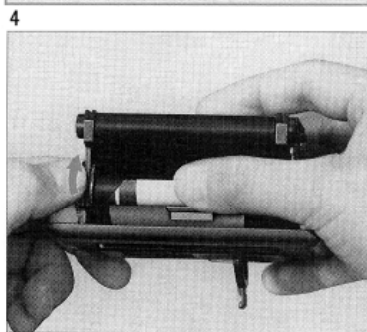
フィルムを出し入れするときは、直射日光をさけて、必ず日陰または自分のからだの陰で行なってください。フィルムバック内側のマークに合わせて、フィルムと空のスプールを入れます。

- フィルムを入換えるときは、必ずグリップの電池あるいは電源[遠隔操作用のコード]を、ボディーに接続した状態で行なってください。フィルム交換と電源部を接続する順序が逆になると、撮影機能は正常に働きますが、フィルムカウンターは前回撮影の最終フィルム枚数表示が継続するため、フィルムカウンターが0に戻りません。

1. 空スプールを移動させるときは、スプール押えを外側に倒し、空スプールをスプール軸受けにかみ合うようにはめ込み、スプール押えを元に戻します。
2. 空スプールの取り付け方と同じ方法で、新しいフィルムをフィルムマークに合わせて入れ、スプール押えて止めます。[フィルムがゆるまないようにしっかりつかみ、留めてあるシールはちぎって取ります。]
3. 図のように、フィルムのリーダーペーパーを引出して、先端部を空スプールの溝に差し込みます。
- 空スプールの溝から飛び出た先端部は、スプールにそって折り、しっかり巻きつくようにしないと、フィルムゆるみ、太巻の原因となります。

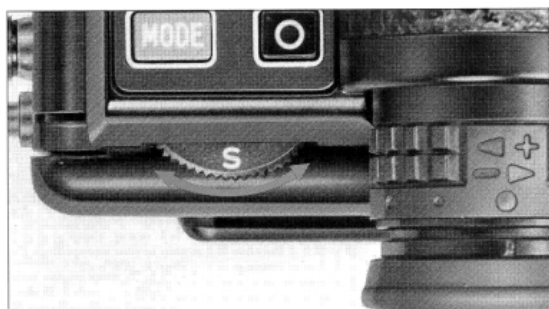
18

- フィルム傷の原因になりますので、圧板は常にきれいにしておいてください。ごみや汚れが付いたときは、きれいな布で拭いてください。



4. リーダーペーパーを軽く押えながら、巻上げギヤを矢印方向に回してスプールを回転させます。
5. 巻上げギヤを回して巻取って行くと、写真のように、リーダーペーパーのスタートマーク[矢印]が出てきますから、フィルムバックのスタートマークS[赤線]と合わせてください。220フィルムの場合、矢印は点線が出たあとと約14cmのところに出て来ます。点線で合わせると間違いとなり、27枚しか写りません。
- スタートマークより大幅に行きすぎると、最後の枚数がフィルムぎれになる恐れがあります。フィルムをセットしたら、ボディーに取り付けます。一般の撮影の仕方は20～43ページをごらんください。

- フィルム規定枚数の撮影が終わり、巻上げが完了したらフィルムバックをボディーから取出します。
- フィルムの規定枚数を撮影すると、自動的に最後まで完全に巻取ってモータードライブは止まります。このときのフィルム枚数LCD表示は各フィルムの規定枚数の次の数値で止まります。
 - 6. フィルムバックを取出すと、空スプールマーク側のスプールにフィルムが巻取られています。フィルムを押えながら、スプール押えを外側に倒してフィルムを取出します。リーダーペーパーに付いているシールで、フィルムがたるまないように止めてください。



645はモータードライブを内蔵した自動巻上げの専用カメラです。C-S切換えダイヤルで1コマ撮影や連続撮影に切換えて撮影できます。写真のように、C-S切換えダイヤルを回して、CまたはSに合わせます。

1コマ撮影[S]

シャッターボタンを押すとシャッターがきれ、フィルムが巻上げられて停止します。

連続撮影[C]

シャッターボタンを押している間は連続撮影が行なえます。シャッターボタンを離すと巻上げ後停止します。

120・220フィルム使用時約1.5コマ/秒になります。

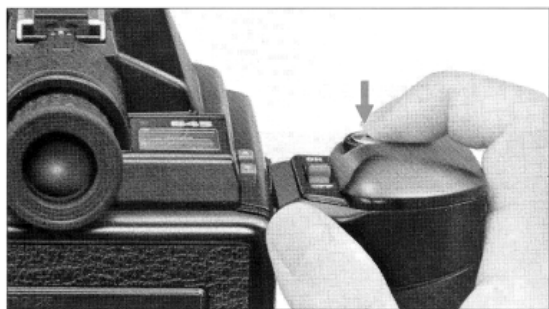


メインスイッチ、シャッターボタン

メインスイッチをONにしてシャッターボタンを少し押すと、露出計のスイッチがONになりファインダー内にLEDが表示します。さらに押すとシャッターがきれます。露出計はタイマースイッチ付きで、シャッターボタンから指を離すと約30秒たつて自動的にOFFになります。

- 露出中にメインスイッチをOFFにすると、適正露出にはなりませんのでご注意ください。

フィルム枚数LCD表示[1枚目セット]



メインスイッチをONにしてシャッターボタンを押すと、シャッターがきれで自動的にリーダーペーパーを巻上げ、フィルム1枚目で停止します。

120フィルムでは15枚、220フィルムでは30枚の撮影ができます。

- 120フィルムの6枚撮りを使用すると、645で約7枚撮影ができます。なお、シャッターとフィルム枚数LCD表示は約12まで作動します。

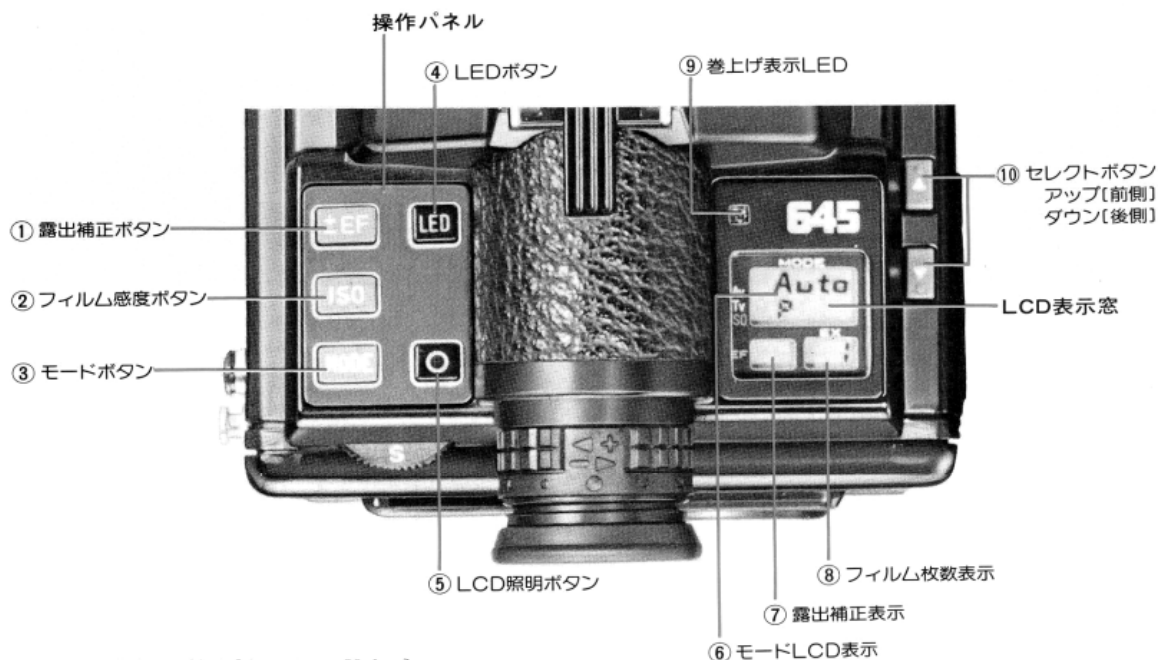


写真のように、フィルム枚数LCD表示には1が表示されます。

また、フィルム枚数LCD表示は、シャッターがきれている間は点滅表示[1秒間に1回点滅]で露出中を表示しますので、B[バルブ]撮影などでは露出時間をカウントすることもできます。

注 意

巻上げ作動が遅いときや、作動しないときは新しい電池と交換してください。なお、モータードライブの巻上げが、極端に遅くなるとビビビビッとモーターの断続音が出ます。このときは、電源スイッチをOFFにしてください。



※ Av=絞り[Aperture Value]

Tv=時間[Time Value]

22

フィルムバックをはずした状態で、撮影モードやシャッタースピード・絞りF値のセット練習をするときは、付属のボディ後キャップ645をボディに取りつけて、シャッターを1回きってから行ないます。

操作パネルの各ボタン

- ①露出補正ボタン
- ②フィルム感度ボタン
- ③モードボタン

露出補正、フィルム感度、モード切換えは各ボタンを押しながら、セレクトボタンのアップ[前側]またはダウン[後側]ボタンを押して操作します。各ボタンを押すと、各LCD表示は点滅に変わります。

④LEDボタン

ファインダー内のLED表示を消したり出したりするときのスイッチです。LED表示はシャッターボタンを少し押したとき点灯します。点灯しないときは、LEDボタンを押して確認してください。

⑤LCD照明ボタン

撮影場所が暗くてLCD表示が見えないときは、LCD照明ボタンを押すとランプが点灯し、表示を確認することができます。もう一度ボタンを押すと消灯します。点灯したままでも約12秒後には、タイマーによって自動的に消灯します。

LCD表示窓の各種表示

⑥モード表示

Auto、P、1000~15"、F1.7~F4.5
M、60、B、LS、 $\frac{1}{2}$ 、6~6400[ISO]

⑦露出補正表示

+3 ~ 0 ~ -3 ±3段階

⑧フィルム枚数表示

120フィルム=1~16表示[16は終了表示]

220フィルム=1~31表示[31は終了表示]

70mm=1~約90表示[フィルムのセットによる]

巻き上げ表示およびセレクトボタン

⑨巻き上げ表示LED

巻き上げ作動中はLEDが点灯

⑩セレクトボタン

セレクトボタンのアップ[前側]またはダウン[後側]ボタンによって、撮影モードやシャッタースピード、絞り値の選択、およびフィルム感度設定、露出補正の調節。

※ボディにフィルムを入れた状態でも、フィルム枚数が1枚目以上にセットされていないと、モードボタンやセレクトボタンでの操作はできません。

フィルム感度の合わせ方・メモホルダーの使い方

フィルム感度はフィルムの箱に ISO100 のように表示されています。

ISO ボタンを押すと、LCD 表示窓にセットされているフィルム感度が点滅表示します。フィルム感度を変えるときは、ISO ボタンを押しながらセレクトボタン[アップ・ダウン]を一回押すごとに段階移動し、押し続けると連続して移動します。フィルム感度表示は ISO 6～6400 で $\frac{1}{2}$ 段階毎に表示します。

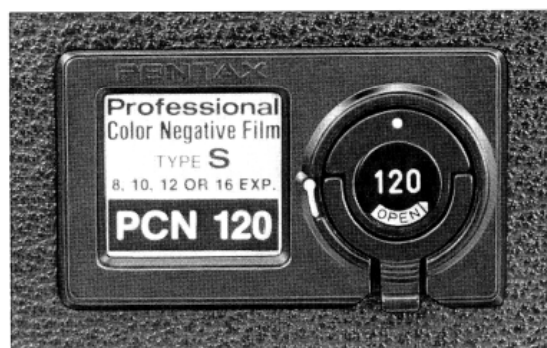
※ ISO は ASA と同じフィルム感度表示です。

アップボタン→高感度側[6400]へ移動

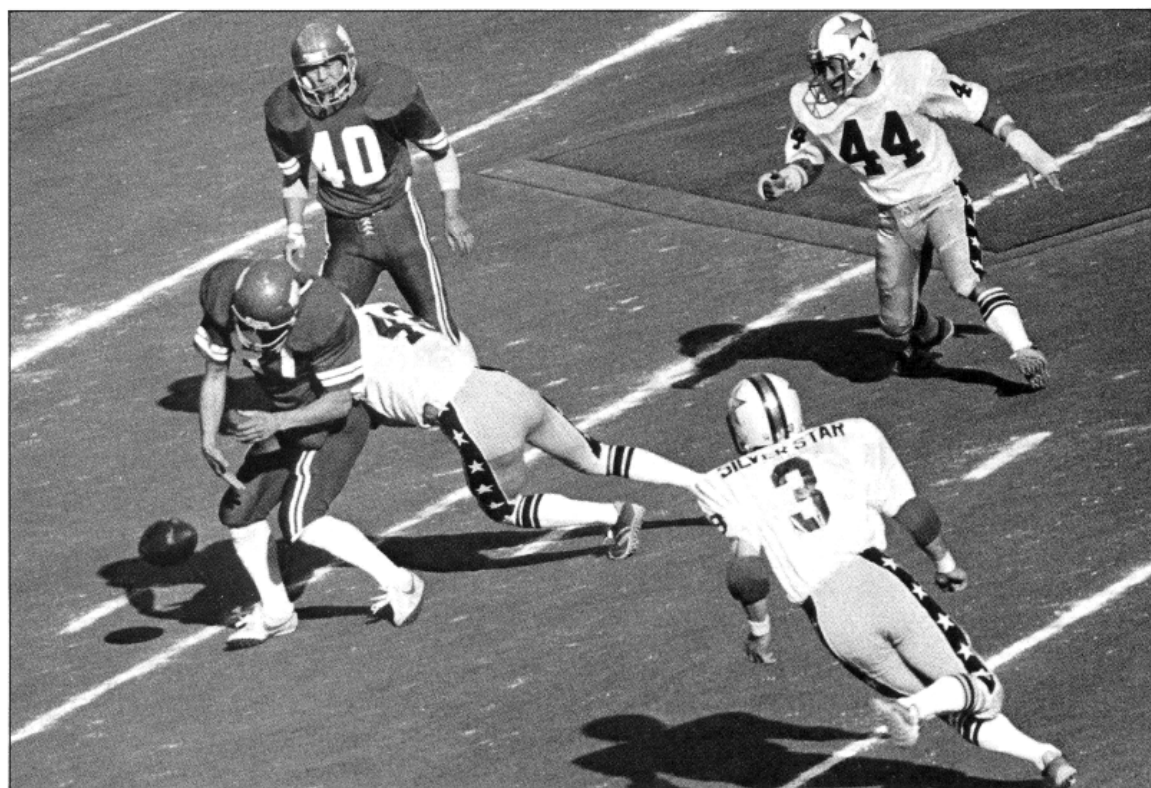
ダウンボタン→低感度側[6]へ移動



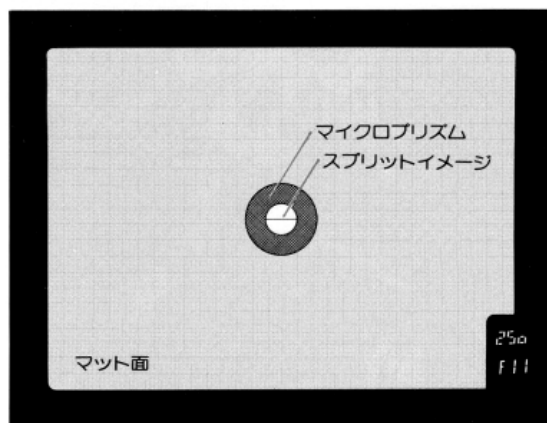
フィルムバックのメモホルダーに、使用フィルムの箱のふたを切取って入れ、メモとしてご利用ください。また、メモ用紙を入れておいて、データの記録にもご利用いただけます。



24



25



ファインダー内右下側にはLEDでシャッタースピードや絞りが表示されます。また、ストロボ情報や露出補正の警告、レンズシャッター付レンズ使用の表示もされます。

シャッタースピードや絞り値、±のLED表示などの流れ点滅は、露出計の「連動範囲外」または「測光範囲外」を示します。

[くわしくは各撮影モードの説明をごらんください。]

26

シャッター情報LED

1000 ~ **15"** ...シャッタースピード。1000は $\frac{1}{1000}$ 秒、15"は15秒となり1段階毎に表示。

B ...バルブ。長時間露出。

→ ...ストロボ充電完了表示およびオートチェックの確認[専用ストロボのとき]

L5 ...レンズシャッター付レンズを使用しているときの表示。

絞り情報LED

F1.7 ~ **F45** ...絞りF値。F1.7~F45を $\frac{1}{2}$ 段階毎に表示。

F-- ...レンズの絞りを各F値にセットして使っているときの表示。[絞り優先自動露出、60($\frac{1}{60}$ 秒固定)、B(バルブ)のとき]

+ - ...露出補正警告[点滅]

03 ~ **OK** ~ **-3**

マニュアル露出のとき適正露出値からの補正量[03~ -3「0は+表示」]段階を表示。OKは適正露出。

※露出計の電源タイマーがOFFになると、ファインダー内のLED表示は消えますが、外部のLCD表示は消えません。

撮影モードのファインダー内警告表示

●ファインダー内のLED表示の $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ は流れ点滅および点滅を示します。

LED表示	内 容
$\frac{1000}{f28}$ ~ $\frac{1000}{f28}$ $\frac{1000}{f28}$ ~ $f28$	連動範囲外 シャッタースピード表示または絞り値表示が流れ点滅して警告します。 シャッタースピード、または絞り値を変えて流れ点滅が消えれば撮影することができます。
$\frac{2^{11}}{f28}$ ~ $\frac{2^{11}}{f28}$ $\frac{1000}{f22}$ ~ $\frac{1000}{f22}$	測光範囲外※ 各撮影モードで、絞り値表示とシャッタースピード表示が同時に流れ点滅して警告します。そのまま撮影すると、適正露出は得られません。
$\frac{1000}{f28}$ ~ $f28$	露出補正警告表示 LED表示の+または-が点滅します。各撮影モードで露出補正を使用していることを知らせます。

●ファインダー内のLED表示が流れ点滅または点滅によっていろいろな警告を知らせます。

●上表のLED表示は一例です。使用レンズの絞りや被写体の明るさ、フィルム感度[ISO]によって異なります。

●連動範囲外とは、測光範囲内でもシャッタースピード、または絞り値との組み合わせ限界を越えている場合。

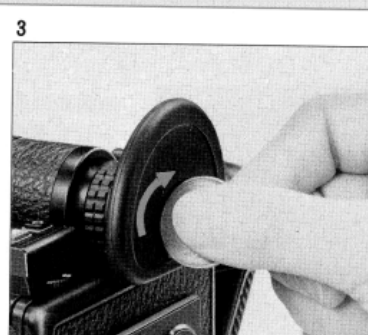
●測光範囲外とは、被写体の明るさが極端に明るい場合、暗いため、カメラの露出計が働く範囲を越えている場合。

※測光範囲外

測光範囲外[露出計の能力限界外]になったときの救済法。

●被写体が明るいときは、市販のNDフィルターをご利用ください。

●被写体が暗いときは、ストロボまたは他の照明光が必要です。あるいはマニュアル露出をしてください。



アイカップ645は、標準タイプのほかに大型タイプが付属していますからお好みに合わせてご利用ください。ゴム製の大型アイカップは顔をぴったり押しつけてカメラを安定よく構えられるタイプです。

1. 標準タイプのアイカップをはずすときは、左に回してファインダーからはずします。逆の操作で取り付けられます。
2. 大型タイプを取りつけるときは、標準タイプのアイカップを取りはずしてから、アイカップ固定ピンとアイピースの固定溝を合わせて入れます。
3. 大型タイプはコインなどで取り付けネジ溝を右に回して、しっかり締めつけます。逆の操作で取りはずせます。

※ アクセサリーのレフコンバーター645などを使うときは、アイカップを取りはずしてください。

28

視度調節の仕方



このカメラには、視度調節環が付いています。視度調節を確実にに行かないと、ファインダー画像のピント合わせが正確にできません。

2. 調節するときは、図のようにカメラを無地の明るい方に向け、視度調節環を回して、ファインダー内のマイクロプリズムとマット面との境界の線が最もはっきり見えるところで止めます。視度を合わせるときは、被写体にピントを合わせてはいけません。

1. 写真のように、視度調節環には視度調節指標があります。＋の矢印表示が上部にあるときは約－1ディオプターの位置です。遠視の人は、視度調節環を＋方向[左側]へ回します。近視の人は、視度調節環を－方向[右側]へ回します。
調節後ご自分の位置を覚えておけば、使用するとき調節する必要はありません。

ピントの合わせ方

ファインダーを見ながら、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

ピントはスプリットイメージ、マイクロプリズム、マット面のどこでも合わせられます。

スプリットイメージでは上下の像が一致するように、マイクロプリズムではギザギザした像がはっきり見えるように、マット面では像がはっきり見えるように合わせます。

レンズがF5.6より暗いとき[F8など]はスプリットイメージとマイクロプリズムでは合わせられなくなります。マット面で合わせるか、交換フォーカシングスクリーン645〔別売〕をご利用ください。

〔62ページをごらんください。〕



ピントが合っていない



ピントが合っている

30

カメラの構え方



カメラぶれのない写真を撮るためにはカメラの構え方が大切です。フィルムを入れる前に操作し、よく慣れてください。

基本的には図のように2通りの構え方があります。いずれの構え方でも、カメラを顔や手などで良く固定します。

シャッターボタンは静かに押します。強く押すとぶれやすくなります。



足を前後あるいは左右に少し開いて安定した姿勢を取ります。左腕のひじはからだに付けるようにしてください。

木や建物、テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。

スローシャッターや望遠レンズを使用するときは、しっかりした三脚を使い、別売アクセサリーのケーブルリリースやケーブルスイッチAなどをご使用ください。



オートロック切換え

左写真のレンズの絞りをA[オート]にするときは、絞りオートロックボタンを押しながら、絞りA[緑色]を◆指標に合わせると、Aにロックされます。Aから解除するときも、絞りオートロックボタンを押しながら、A以外の各F値へ回します。

絞りオートロックボタンはAと最小絞り[F22など]の切換えロックボタンです。長時間露出中に絞りをAまたは各F値への切換えはできません。

絞りの位置によって次のモードが得られます。

A[オート]	プログラム自動露出
	絞り優先自動露出
	シャッター優先自動露出
各F値 [A以外]	絞り優先自動露出
	マニュアル露出
	60[1/60秒固定]
	B[バルブ]

32

撮影モードのセット

左写真のモード[MODE]ボタンを押しながら、セレクトボタンのアップ[前側]またはダウン[後側]ボタンを一回押すごとに、モードは右のように切換わります。[右表は外部LCD表示です。]

絞りやシャッタースピードのセット

絞りをA[オート]にセットしたときの絞り優先・シャッター優先自動露出では絞りF値やシャッタースピードを、また、絞りを各F値にセットしたときのマニュアル露出ではシャッタースピードをセレクトボタンで選ぶことができます。LCD表示は、セレクトボタンを一回押すごとに段階移動し、押し続けると連続して移動します。

アップボタンでは、シャッタースピードが1000[1/1000秒]、絞りがF22[※]の表示でストップします。

ダウンボタンでは、シャッタースピードが15[15秒]、絞りがF2.8[※]の表示でストップします。

※ 絞り値表示は使用レンズの絞り値範囲内で表示。

絞りがA[オート]のとき

Auto 1000	= シャッター優先自動露出	(アップボタン)
↓ ↑		
Auto F22	= 絞り優先自動露出	
↓ ↑		
Auto P	= プログラム自動露出	(ダウンボタン)

※ F値やシャッタースピードは、そのときセットされている数値が表示されます。

絞りが各F値のとき

B	= B[バルブ]	(アップボタン)
↓ ↑		
60	= 60[1/60秒固定]	
↓ ↑		
M 1000	= マニュアル露出	
↓ ↑		
Auto f--	= 絞り優先自動露出	(ダウンボタン)

※ フィルムバックをはずした状態で空シャッターをきるときは、M1000、60、Bの操作だけができます。